

冬の林



1月の「共生の森」は落葉樹が葉を落とし、雑草も枯れ、晴れた日には柔らかな光が林内に差し込みます。

重なる木々の枝の奥には冬の鳥たちの姿が見え隠れ。虫の姿もなく、花も少なく、1年で最もすっきりとした季節に。

20日は「大寒」。1年で一番寒い時期を迎えるが、ここを越えると少しずつ春が見えてくる。来月の今頃は、ウグイスも鳴きはじめ、春の花が咲き始めている。

見かけた植物・生き物



センダン



エノキ



アキニレ



ナンキンハゼ



クヌギ



シナサワグルミ

シロハラ



枝の奥に 鳥たちが見え隠れします



アオジ



ヒヨドリ



シナサワグルミ



アカカシ



エノキ



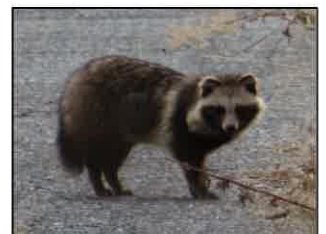
センダン



アオキ



真冬の花 ビワ



冬のタヌキ



トックリパチ 巣



チョウセンカマキリ 卵塊

セグロカモメ (カモメ科)



ここ数日、今シーズン最後といわれる強い冬の気圧配置となり、冷たい西風が吹きつける。「共生の森」からみた大阪湾は深い緑色で、沖合には白い波頭がたっていた。

そんな強風の中、一羽のセグロカモメが舞っていた。セグロカモメは冬鳥としてやってくる。海の上を飛んでいるが「共生の森」の上を飛んでいるのは見かけない。

春になると、シベリアの北の方まで渡るとのこと。「共生の森」には、いろいろなところから生き物たちがやってくる。

草刈り跡地



草刈り機の性能試験で草が刈りとられ、久しぶりに広々とした空地が現れた。環境が変わったことで今年は違った生き物がみられるかもしれない。チュウヒもやってくるか。



ホトケノザ



ウメ



ウメ



冬のココモコ タヌキ

見かけた植物・生き物



センダン



ナンキンハゼ



実がなくなったピラカンサ



センダンを食べるヒヨドリ



タヌキたの糞 センダン

ピラカンサやノイバラの実が無くなり、残されているのはセンダンやナンキンハゼの実。鳥やタヌキが残された実で冬を凌いでいる。

メジロはどこだ



枝先に朱色がさしてきた。春はもうすぐ

ハマサジ（イソマツ科）初登場



ハマサジは、種が海流によって運ばれて分布を広げる植物。大阪湾では男里川河口（泉南市）などに群落が見られるようで、そのあたりから運ばれて来たのかもしれない。波の高い日に防波堤を乗り越えて「共生の森」に入り込んだ。

花は秋に咲くとされるが数株、咲いているものもある。「共生の森」の一番海側の時々波がかかる辺りには、ハマサジのほか海流に運ばれてやってくる、ツルナ、ウシオツメクサ、ハマウド、ハマヒルガオなども生えている。

（ハマサジ：大阪府レッドリスト絶滅危惧Ⅰ類）

見かけた植物・生き物



ツルナ



ウシオツメクサ △



ハマウド



ハマダイコン



カリン



シナサワグルミ

めだか水路



湧水で水は減っているが深みにはメダカがいた。横にいるモクズガニは死骸



鳥に運ばれてきたサクラ



スノーフレーク



ナガミヒナゲシ



ナヨクサフジ



カラスノエンドウ



この時季だけのツマキチョウ



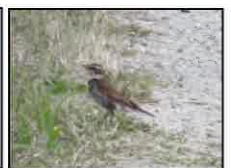
セイヨウカラシナ・クマバチ



タヌキ



ウグイス



ツグミ



ネコ

ぶさいく系

ネコが入り込んでいた。人をあまり恐れない

マグワ（クワ科）



車道の木にクワの実がなっていた。日頃気づかないが、この季節あちらこちらで見かける。マグワは中国原産で養蚕用としてかつては広く栽培されていた。「共生の森」のマグワは産廃公社が平成17年度に15本植栽していて、大きく成長している。それが鳥によって分布を広げているものと思われる。

クワの実のレストランは、シロテンハナムグリ、コアオハナムグリ、アオヒメハナムグリなど多くの客でにぎわっていた。

見かけた植物・生き物



ハマヒルガオ



ハマウド



センダン



アレチモウズイカ



チガヤ



ヒルサキツクミソウ



ピラカンサ



タガラシ



シナサワグルミ



ミヤコグサ

ボラの稚魚



海沿いの水路水ダメにボラの稚魚が群れていた。モクズガニのように内部への侵入は無理そう。



子持ち スジエビ



ヒシバッタの一種



ギンヤンマ



ショウジョウトンボ



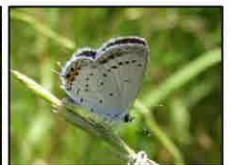
シオカラトンボ



ヒオドシチョウ



テングチョウ



ツバメシジミ



トノサマバッタ



ツチイナゴ



コチドリ

センダン



センダンが満開

ハネビロトンボ【トンボ科】

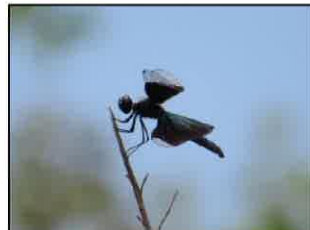


ハネビロトンボは九州・四国南部から南西諸島にかけて分布する南方系のトンボで、大阪では迷入種とされているよう。「共生の森」ではこれまで9月末に見られることがあった。(H29/R3) 昨年の9月末には複数の個体が飛んでいたのでもうスバキトンボのように毎年南方からやってくるトンボになるのかと楽しみにしていたところ、今年は6月に複数の個体が飛んでいた。もしかすると、「共生の森」で繁殖しているのかもしれない。

見かけた生き物・植物



タイワンウチヤンマ



チョウトンボ



アオモンイトトンボ



ショウジョウトンボ



ヒメギス



キリギリス



コオイムシ



ツマグロヒョウモン



コガネグモ



カワラヒワ(幼)

夏のタヌキ



炎天下をタヌキが歩いていた。今年に入ってからタヌキの死骸を見かけたり、溜めフンが少なくなっているとの情報あり。タヌキの数が減っているよう



ネムノキ



ザクロ



ハマウド



ノラニンジン



トウネズミモチ



ザクロ 鳥に運ばれたか

Q 池



Q 池が干上がっていた。今年は渇水か。

ヒメジャノメ (タテハチョウ科)【初登場】



林の中の暗がりヒメジャノメが飛んでいた。「共生の森」の木が大きくなり植生の遷移が進むに従い いろいろな蝶がやってくる。

ヒメジャノメはもっと早い段階でやってくると思っていた。「共生の森」にやってきた32番目のチョウになった。

かたつむり ピンチ



うっかりしていたカタツムリ 脱出できるのか。この日は、クマゼミ、アブラゼミ、ニイニゼミ、ツクツクボウシが鳴いていた。

見かけた生き物・植物



ギンヤンマ



色の変り始めたシオカラトンボ



ムスジイトトンボ



マイコアカネ



台湾ウチワヤンマ



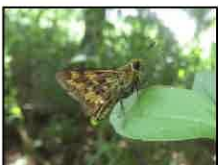
クマゼミ



ベニシジミ



キタテハ



キマダラセセリ



ウラギンシジミ



キリギリス



ショウリョウバッタ



ヒメギス



オオキンケイギク



コヒルガオ



ハマハナセンブリ



シナガワハギ



ヤブガラシ



ノラニンジン



メダカ

深みに集まる
今年の夏を乗り越えることができるか



コチドリ(幼)



チョウゲンボウのホバリング

クワカミキリ



クワの木が増えてきたと思っていたらクワの木にクワカミキリが。環境が整えば生き物はやってくる。

コガタスズメバチ (スズメバチ科)



道沿いの ヤブの中に コガタスズメバチの巣があった。スズメバチの仲間で小型といっても体長3cm ほどもある大型のハチ。

「共生の森」のスズメバチの仲間では 最もよく見るハチで ヤブガラシの花にいるのを見かける。巣に近づくと警戒して入口からハチがこちらを覗っていた。

ナラ枯れ (カシノナガキクイムシ)



「住友ゴムの森」でクヌギが 10 本ほど枯れていた。木が若いことと、フラスがあまり出ていないがカシノナガキクイムシの被害が疑われる。

よく見ると犯人が○の中に!

見かけた植物・生き物



クズの花



車道を埋め尽くしたクズ



センニンソウ



タマスダレ



トノサマバッタ



サトクダマキモドキ



ツクツクボウシ



コオイムシ



ハネビロトンボ

今年は 6 月から常にいる



マイコアカネ



カタツムリ が クマゼミの死骸を食べていた。現場に急行中のものも



ウスバキトンボ



この日、一番多かったのはウスバキトンボ
ウスバキトンボは毎年、南方からやってくるトンボ。
NHK でウスバキトンボのマーキングをやっている。
アサギマダラに比べ数も多く 捕まえる難易度も高いのでマーキングされたトンボを見つけたのは難しそう。

タヌキのフン



メタリックなフン



ランタナの実



ウラナミシジミ



ルリシジミ

道の真ん中に、メタリックなフンが落ちていた。単独で落ちていたが タヌキのフンと思われる。アオドウガネ、アオヒメナナムグリなどコガネムシ、ハナムグリ系の甲虫を食べたフン。

次は ためフンのフン。ランタナの実を食べたもの。

ためフンは 昆虫に人気がある。この日も蝶が集まっていた。

見かけた植物・生き物



ヒガンバナ



白い ヒガンバナ



キクイモ



アメリカウンランモドキ



オトコエシ コアオハナムグリ



ランタナ キマダラセセリ



ホシアサガオ



アメリカアサガオ



メマツヨイグサ



イヌコウジュ



マイコアカネ



タイリクアカネ



シオカラトンボ



アオモンイトトンボ



モンシロチョウ



ヤマトシジミ



ヒメアカタテハ



イチモンジセセリ



チャバネセセリ



イナゴ



メダカ水路

これまで 干上がったことのないメダカ水路が干上がっていた。今年は 雨が少ないよう。深みに避難しているメダカもいた。

オオバン (クイナ科)



鳥が襲われ 黒い羽が散らばっていた

オオバン

Q池のそばに 鳥の羽がちらばっていた。黒系統の鳥の羽。以前見つけたドバトより量が多い感じ。寺川さんにオオバンの羽だと教えていただいた。オオタカ か チュウヒに襲われたのではないかとのこと。Q池の羽の落ちていたそばには オオバンがいた。

この日は、日本野鳥の会カワセミの会・NPO 法人共生の森・大阪自然環境保全協会の皆様により野鳥観察会が行われ、34種の野鳥を確認できたとのこと。

ウグイス、ヒヨドリ、ミサゴ、ジョウビタキ、ハクセキレイ、ヒバリ、アオサギ、メジロ、モス、ノスリ、カワラヒワ、キジバト、ソウシチョウ、オオバン、カルガモ、マガモ、ハシビロガモ、トビ、アオジ、セグロカモメ、ホオジロ、ハシボソガラス、カワウ、ダイサギ、ホシハシロ、ヒドリガモ、トビ、チュウヒ、アオサギ、コチドリ、ムクドリ、クサシギ、チュウシャクシギ、コミミズク(順不同)

見かけた植物・生き物



タンキリマメ



アキノノゲシ



コミミズク 今年もやってきた



ミサゴ



トキワサンザシ (ピラカンサ) タチバナモドキ



ハシビロガモ



カイツブリ



ジョウビタキ



ナワシログミ



アレチハナガサ ウラナミジミ



ギンヤンマ



シホシナムグリ



カナヘビ

タヌキ



白顔系のタヌキ すでに冬毛 人間に3mの距離まで近づいてしまい 考え中



オシロイバナ



カナムグラ



何者かの獣道



クロコノマチョウ 枯葉そっくり



コアオハナムグリ(茶色) 共生の森では茶色は少ない



ウラギンシジミ タヌキのフン

その他: ヤマトシジミ○・ベニシジミ○・モンシロチョウ○・モンキチョウ○・ツマグロキチョウ○初登場・キタキチョウ○・ツマグロヒョウモン○・ヒメアカタテハ・イチモンジセセリ○・チャバネセセリ○・タイリクアカネ○・マイコアカネ○・ショウジョウトンボ○・ウスバキトンボ・オンツバメ○・マダラバッタ○・アオヒメハナハグリの○・コガタスズメバチ (○写真あり)

クコ（ナス科）



海岸沿いの一番海側にクコの実がなっている。このエリアは 海流や波に運ばれてやってきた植物が生えている場所。「共生の森」の他の場所にクコは生えていないことから、クコは海からやってきたと思われる。大和川上流の石川の河川敷でクコを見たことがあるのでそこからやって来たのかもしれない。いずれにしてもクコは水を利用して分布を広げているよう。

ヘラサギ



ヘラサギが3羽やってきた

「共生の森」の 紅葉



見かけた 生き物・植物



猛禽類に襲われたオオバン 今回は脚が残されていた



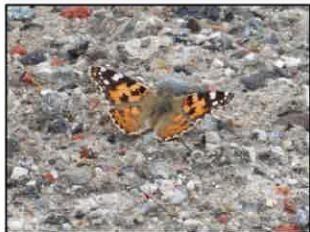
地上高 1.2m 何者がカジった？ ウラナミシジミ



ホシハジロ



セイタカシギ



ヒメアカタテハ



タイリクアカネ・トウネズミモチ



カシラダカ



イソヒヨドリ



ビワ



ヤツデ

ウグイスの 巣



草が枯れて ウグイスの巣がでてきた

モズのはやにえ (オオカマキリ)



オオカマキリのはやにえがあった。

秋から冬にかけてのこの季節は、モズの声聞きながら、はやにえを探すのが楽しい季節。

以前は見つけやすかったはやにえも最近では、「共生の森」の木が大きくなり見つけるのがだんだん難しくなってきた。

見かけた 生き物・植物



オオカマキリ 卵塊



葉が落ち 鳥の巣が



風が強く ワシントンヤシの葉が落ちていた



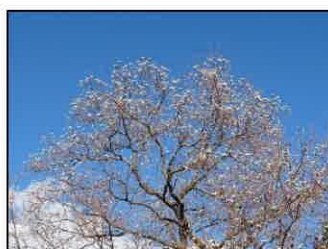
スイカズラ



トキワサンザシ



アキニレ



ナンキンハゼ

ツクシガモ



ホシハジロ に交じて、スズガモ、ツクシガモが



この日は冬型の気圧配置が強まり、金剛・和泉葛城・六甲山系が初冠雪。対岸の六甲山の冠雪



海には白波が。明石海峡大橋が見える。帆船は明日入港の日本丸か、神戸に寄港中の海王丸か。



トビ と カラスが円を描いて飛んでいた
海からの風が強く昆虫は見かけず。冬がきた